

## 「自社遊休地を活用し、学習塾と障害者作業所で人を育てる」

### ● 訪問企業の概要

運営企業：株式会社フロンティア（福祉事業）

関係建設企業：株式会社東豫建設（学習塾事業、貸倉庫事業）

所在地：新居浜市（東予）

資本金：20 百万円

業 種：土木工事業

従業員：2 名



#### (1) 進出した新分野の事業内容、時期

- ・ サービス業分野（学習塾事業）（平成 19 年 9 月～）
- ・ 不動産業分野（貸倉庫事業）（平成 19 年 9 月～）
- ・ 福祉分野（就労継続支援 A 型事業（障害者を雇用したいだけ栽培・加工事業））（平成 23 年～）

#### (2) その分野を選定したきっかけ・理由

- ・ 公共事業量が縮小してきたため、自社所有地を有効活用した新事業への進出を検討。
- ・ 「人は伸びる、人を育てたい」との思いで、学習塾事業を開始するとともに、貸倉庫事業を始めた。

- ・ 学習塾は夕方以降が業務の中心となるため、日中の空き時間を活用して、更なる新事業を検討。
- ・ 障害者自立支援法が改正され、福祉事業への株式会社の参入が可能となったことから、「人は伸びる、人を育てたい」の思いで、障害者福祉事業に取り組むこととし、県の障害者自立支援基盤整備事業の助成を受け、㈱フロンティアを設立し、進出した。
- ・ 県外の建設業者に障害者福祉事業に進出している業者があり、しいたけ栽培のノウハウを学べることから、障害者を雇用したいたけ栽培・加工を開始することとした。

### (3) 事業・技術・製品の特長

- ・ 学習塾事業については、地域に根差した個別指導で、丁寧に生徒の面倒を見るよう心がけている。
- ・ しいたけ栽培・加工事業については、就労経験を通じて障害者の自信につながるよう心がけている。

### (4) 進出時の体制

- ・ 学習塾事業・貸倉庫事業には 8 百万円程度の投資を要した。
- ・ しいたけ栽培・加工事業については、資材倉庫を作業場として改装するため、1,500 万円程度の初期投資を要した。
- ・ 学習塾事業は塾長が専従し立ち上げた。しいたけ栽培・加工事業は塾長に加えて㈱フロンティアで 4 名の役職員が専従。

### (5) 事業の経過

- ・ 学習塾については、平成 22 年～23 年にかけては生徒数が最大となった。しかし、しいたけ栽培・加工事業の立ち上げに伴う繁忙から、学習塾の講師・生徒に対する指導に手が行き届かなくなったため、講師・生徒数が大きく減少し、現在は、生徒数がピーク時の 10 分の 1 にまで減少している。
- ・ しいたけ栽培・加工事業については、平成 24 年度に佃煮の加工施設を整備し、拡充した。

### (6) 苦勞した事柄、解決策

- ・ 当初、学習塾では生徒と講師の確保に苦勞したが、塾生への指導を丁寧に行うことで、父兄等へも評判が伝わり、口コミで徐々に生徒数を増加させることができた。
- ・ しいたけ栽培・加工事業については、法制度により別法人を新設する必要があったことと、障害者が前向きに就労するための心のケアが難しく、多くの時間を要した。
- ・ また、しいたけ栽培のノウハウについても苦慮したが、同じ就労継続支援事業として、しいたけ栽培を行なっている他県企業から指導を受け、ノウハウを蓄積することができた。

**(7) 新分野従事者の属性**

- ・ 学習塾事業は、塾長（貸倉庫事業、しいたけ栽培・加工事業を兼務）の他、社員 1 名、講師 2 名が専従。（塾長は建設業には従事せず）
- ・ 貸倉庫事業は、塾長が従事。
- ・ しいたけ栽培・加工事業は、塾長に加えて㈱フロンティアで 8 名の役職員が専従し、障害者 25 名をパートとして雇用。

**(8) 県の建設産業経営革新等助成事業以外に活用した公的助成制度**

- ・ 障害者自立支援基盤整備事業

**(9) 現在の売上、今後の見通し**

- ・ しいたけ栽培・加工事業の立ち上げに伴い、手薄となった学習塾について、立て直しを図る予定。まずはピーク時の 10 分の 1 にまで落ち込んだ生徒数を、一年以内にピーク時の半分（5 倍増）程度にまで引き上げることを目標としている。

